

STRING BASS

ワンポイント・アドバイス

I 行進曲「煌めきの朝」

作曲：牧野圭吾

fによる輝かしいダイナミックな冒頭から一転し【A】からmpで木管のメロディと一緒に頭打ちが始まります。流れを止めず上手く場面転換しましょう。この頭打ちは八分音符なので、長くなりすぎないように軽快に。テンポが不安定な場合は、八分休符を意識してみてください。

【C】のアウフタクトから一つ一つの音をハッキリ発音させ、フレーズを長く弾けるように。ffですが、あまり弓を使いすぎると逆に弾きにくくなってしまいますので注意しましょう。

【G】からのpizz.は、腕のストロークを変えて音符の違いを表現してみましょう。

【K】の音形は移弦して弾いても良いですが、157～158・161～162小節目はD線、159～160・163～164小節目はA線のみで、それぞれ弾くことも出来るのでチャレンジしてみてください。

【L】からは弓を多めに使って元気良く頭打ちしましょう。最後の四分音符はダウンで弾くのが良いでしょう。

II ポロネーズとアリア ～吹奏楽のために～

作曲：宮下 秀樹

3小節目のアウフタクトから音があります。弓を弦の上に置き、準備してから弾き始めましょう。

【A】の二分音符をダウンから弾く場合、弾き終わりが弓先に近くなると思います。その際、八分休符の間に弓を少し真ん中に戻すと、次の八分音符が弾きやすいです。

43小節目はnon rit., non leggieroの指示を守りながらクレッシェンドして【E】に入ります。ffの四分音符をたっぷり響かせる事を心がけましょう。

【F】～55小節目は、少しずつ弓の量を増やしながらクレッシェンドしてみましょう。56～57小節目のような長く音を伸ばす場合は、弓を返すこととなります。その時アクセントが付かないよう丁寧に演奏しましょう。

78小節目は、アップから演奏するのがオススメです。

最後の八分音符は、十六分音符の三連符を演奏してるパートと一緒に弾くつもりで一緒に演奏しましょう。

STRING BASS

ワンポイント・アドバイス

Ⅲ レトロ

作曲：天野正道

この曲はエレキベースを意識して作曲されています。arcoの部分に関しては、エレキベースのように強い音が欲しいからと、やみくもに弓を振り回しても、まともな音にならずコントロールも難しくなってしまいます。まずは弓をコンパクトに使って一つ一つ音が立つように練習してみましょう。

オクターブで進行することも多く、左手の形の確認や一弦またいで弾く練習も大切です。ボウイングをしっかり決めて動きも固めましょう。25～28小節目のPizz.の動きも速いので、指板から右手が離れすぎないようにしましょう。また、pizz.からarcoへの切り替えも速いので練習が必要です。パートで複数人いるならpizz.の最後まで弾きarcoは少し遅れて入る人、pizz.は早めに切り上げてarcoは最初から弾く人に分けるのも手です。

最後の音はグリスダウンで指を滑らせ音程を下げていきます。E線のCからグリスダウンしてみましょう。最後のCはアクセントで鳴らしてから指を滑らせ消えていきましょう。

Ⅳ マーチ「ペガサスの夢」

作曲：水口 透

全体を通してペガサスが駆けまわるような音形が出てきます。重くならず軽く跳ねる様な音を出してみましょう。

【A】からの頭打ちは初速が一番速く、発音したら楽にフォロースルーする弓の使い方をするとイメージに近い音が出せると思います。

16小節目のようなパターンは、付点四分音符の長さを保って次の音につなげます。

【C】～【E】間にarco、pizz.の切り替えが何か所か出てきますが、素早い持ち替えが必要なので練習しましょう。

課題曲Ⅲ「レトロ」のpizz.の回りも参考に読んでみてください。

137、141小節目のリズムは、八分音符をアップから入り、139小節目のようなパターンでは、アクセントの付いている音がダウンになるよう、ボウイングを考えてみましょう。

ラスト4小節前は、弓を段々遅くしてデクレッシェンドします。最後のpizz.はppなので、やさしく軽く弾きましょう。